

太宰府の文化財

vol. 489

今年は午年、みなさんにも馴染みのある十二支は、古来、年だけなく日を表すのにも使われ、12日に一度「午」の日がめぐってきます。特に、2月の最初の「午」の日は、この日に穀物の神様である稻荷大神が京都の稻荷山に鎮座したという故事などを主な由来として、「初午」というお稻荷さんゆかりの日になっています。日本各地で五穀豊穣や商売繁盛、あるいは家内安全を願って稻荷を祀る行事がおこなわれます。

この時季は農作業を始める頃でもあり、旧水城村域の農家では、かつては初午のときに農作業で働く牛馬の小屋に絵馬をかけたり、守り札を受けて来て貼り付けたりといった風習があったそうです。もとは農耕との関わりが色濃いものと考えられます。

市内で稻荷を祀っている主要

な神社としては、太宰府天満宮境内地内の天開稻荷社、竈門神社境内地内の式部稻荷社、そして石坂に所在する石穴稻荷神社があり、それぞれで初午の行事が開催されます。中でも石穴稻荷神社の初午祭では、最盛期（明治～昭和頃）には地元だけでなく福岡近郊からも商工人が多く参拝し、天満宮参道脇の溝尻口から神社までの通りに出店が並ぶなど、大いにぎわっていたと伝えられています。今でも開催の時期になると、その道沿いに赤い幟旗が立てられ、太宰府の春の訪れを告げる風物詩の一つです。

文化財課 遠藤 茜

市内の主だった稻荷神社での初午祭は旧暦の初午の時期（3月）に開催されます。各神社の掲示やHPなどでご確認ください。

はつうま
初午

※十二支の元は古代中国で12年を数えるのに用いた符号。十二支と10日を数えるのに用いた十干（甲、乙、丙、…）を合わせて60通りの組み合わせが暦に用いられる。



行事を支える初午会の方々によって幟旗が
かかげられます。（平成26年）



石穴稻荷神社の初午大祭（平成26年）

太宰府市公式SNSのフォローお願いします！



LINE



エックス



Facebook

